

平成29年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成29年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が2月8日水曜日及び同月9日木曜日、一般選抜が3月6日月曜日、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月6日月曜日、一般選抜が3月16日木曜日に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

平成29年3月の県内中学校卒業見込者数（前年比19人増）を考慮し、全日制課程の定員を12,435人（前年比増減なし）とした。

2 平成29年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校59校120系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を課しており、36校82系・科では作文を、19校31科では、小論文を課した。また、学校独自検査は7校9科で課しており、7校8科で学校作成問題を、1校1科で実技を課した。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から一般選抜（学力検査）の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は3校3科で国数英の3教科を実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜（学力検査）受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は24校78科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行うA海外特別選抜で33名が合格した。

定時制課程において、満20歳以上の志願者については、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、5名が合格した。

以下、各教科ごとの学力検査問題（全日制）について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程受検者1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	平成29年度				平成28年度				平成27年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	12,435		640		12,435		640		12,315		640	
受検人員	5,925	10,590	163	258	5,754	10,686	140	241	5,821	10,812	130	272
受検倍率	2.03	1.21	1.36	0.48	1.96	1.22	1.17	0.45	2.07	1.23	1.08	0.51
合格人員	3,374	8,564	107	235	3,359	8,581	106	239	3,252	8,642	108	270
合格倍率	1.76	1.24	1.52	1.10	1.71	1.25	1.32	1.01	1.79	1.25	1.20	1.01

※ 受検倍率＝受検人員÷定員， 合格倍率＝受検人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する事項に係る能力、表現する能力、理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識及び理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉え、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取るなどして自分の考えをまとめて、表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、自分の考えを、理由を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立ててほしいということをお願いして出題した。

1 の漢字の読みの問題は、平均正答率は88.4%、**2** の漢字の書きの平均正答率は70.9%であった。漢字の読みでは、(1)から(3)までが90%を超えており、日常ではややなじみの薄い(5)即興が73.5%とやや低かったが、比較的よく読めていた。日常生活で使用できる語彙を増やすために、漢字学習の重要性を確認することが必要である。書きでは(3)吸収が89.4%と高い一方で、(5)簡潔が51.5%であり、日常での使用頻度が低く、誤りやすい漢字の正答率が低かった。

3 の助動詞に関する設問は正答率が59.5%であったが、その他の設問(**4** 熟語の構成、**5** の敬語、**6** 書写、**7** の和歌)については正答率が高く、中学校での指導の充実がうかがわれる。今後も、伝統的な言語文化にも関心を広げ、日本語全般に関して、幅広く問題意識を持って学習に取り組みたい。

2 は、江戸時代の随筆である「雲萍雑誌」を素材として出題した。約束を守ることの大切さをテーマとした文章である。仮名遣い、文の意味、内容の把握などを問う問題を設定した。

1 の歴史的仮名遣いにおいては、正答率が96.5%と高い完全正答率であり、中学校での古典の読みの指導の成果がうかがわれる。一方、**2** の主語にあたる人物を答える設問は45.2%と低く、**3** の内容を説明する設問の部分正答率も46.0%の正答率であった。

主語が省略される古文の特徴を踏まえ、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等を継続したい。また、言語文化を継承するという観点からも、古文固有の言葉に注目し、古文特有の話の面白さを味わうな

ど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、高階秀爾の「日本人にとって美しさとは何か」を素材として出題した。日本と西欧における「美」の捉え方の違いについて論じた文章である。

3 の空欄補充が61.6%、**4** の段落関係の説明が57.4%であり、選択問題としてはやや低い正答率であった。また、記述問題については、「それ」の指示内容について説明する設問**2**の完全正答率が27.0%、本文からの抜き出しの設問**5**が24.6%であった。なお、設問**2**の部分正答率は67.4%であることから、単に本文から抜き出すだけでなく、本文の表現を適切に用いて説明する力を身に付けることが重要である。

説明的な文章の読解では、主張と具体例を区別して読んだり、根拠を抜き出したりするなどして、筆者が本文を通して伝えようとしていることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。その際には、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、グループで話し合ったりするなどの言語活動を通して、確実に力を付けていきたい。

4 は、山本兼一の「花鳥の夢」を素材として出題した。安土桃山時代の絵師、狩野永徳とその父との関係を描いた場面を取り上げた。舞台背景は現代ではないが、内容及び文章は受験生にとっても読みやすいものであった。

文学的文章の読解では、主観によらず、場面設定を踏まえ、それぞれの人物の心情や言動を押さえながら読み進めていくことが要求される。

選択問題については、登場人物の心情を問う設問**4**、**5**が8割を超える正答率であった一方で、設問**1**の慣用句が57.3%、設問**3**の心情説明問題が、部分正答率4.4%と低く、語彙を広げることや、説明内容を簡潔にまとめて表現する力を身に付けることが求められる。

文学的文章では、グループ活動等において、各自の読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに意見を述べたりする学習活動によって、確かな読みにつなげていきたい。

5 の作文は、「高校生の読書に関する意識等調査」の二つのグラフをもとに、読書についての自分の考えを書くというものであり、これらの内容を適切に書く能力を評価するものである。

グラフから読み取った内容と自分の意見を関連づけて適切に表現することを求めている。また、自らの体験をもとに説明することも重要であり、普段の生活の中において、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、事実と意見の区別や、根拠や理由の整理、効果的な表現などについて確認し、書く過程の学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

国語学力検査結果集計表

(全日制課程全受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	96.6 %	2	1	96.5 % (96.6)	4	1	57.3 %		
		(2)	95.0 %		2	45.2 %		2	51.2 % (63.3)		
		(3)	99.2 %		3	12.8 % (46.0)		3	4.4 % (45.8)		
		(4)	77.9 %		4	60.2 %		4	82.8 %		
		(5)	73.5 %		5	75.8 %		5	82.5 %		
	2	(1)	81.1 %	3	1	89.1 %		6	71.8 %		
		(2)	67.2 %		2	27.0 % (67.4)	5	(97.1 %)			
		(3)	89.4 %		3	61.6 %					
		(4)	65.2 %		4	57.4 %					
		(5)	51.5 %		5	24.6 % (55.7)					
	3	59.5 %	6	79.6 %							
	4	75.3 %									
	5	81.1 %									
	6	82.4 %									
	7	78.5 %									

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 社会科のまとめとして **7** を出題し、その中で各分野の学習の成果を活用する力をみようとした。
- 3 基礎的・基本的内容を各分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 4 地図・統計・写真・年表等から必要な情報を適切に読み取り、適切に表現する力をみようとした。
- 5 分野ごとに論述問題を出題し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的分野	歴史的分野	公民的分野	融合	合計
選 択	8(16)	6(12)	5(10)	2(4)	21(42)
記 述	3(6)	7(14)	6(12)	1(2)	17(34)
論 述	2(8)	2(8)	1(4)	1(4)	6(24)
合 計	13(30)	15(34)	12(26)	4(10)	44(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

1 は、広く地理・歴史・公民の各分野についての基礎的・基本的な知識及び理解度をみるようにした。全体的に正答率は高かった。

2 は、地理的分野のうち、世界の地理的事象に関する出題である。**1** と **2** (1) は、地図の活用に関する問題である。**1** は目的に応じて地図を適切に使用する力をみる問題で、正答率は36.2%、**2** (1) は、赤道や本初子午線など目安となる緯度や経度をもとに、世界地図を読み取る力をみる問題で、正答率は51.8%であった。地図を有効に活用して事象を説明する学習活動を取り入れるなどして、様々な地図の特色についての知識・理解の一層の定着を図る必要がある。**4** の論述問題では、アフリカ州の歴史的背景と関連づけて、資料を的確に読み取り、表現する力をみようとした。正答率は9.5%で、様々な資料を的確に読み取って、地理的事象を説明する力に課題がみられた。

3 は、地理的分野のうち、日本の諸地域に関する出題である。学習指導要領では、特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を追究するように取り扱うものとしている。今回は、中部地方を素材として、その地域にみられる特色を自然環境や産業など複数の事象と関連付けて考察する力をみようとした。**5** の論述問題は、富山県にアルミ産業が根付いた背景を、アルミの生産に必要な電力及び伝統的な地場産業との結び付きの視点から考察するもので、正答率は35.2%であった。複数の事象を結びつけて論述する力を養うことが求められる。

4 は、歴史的分野からの出題である。栃木県の交通の歴史を素材として、我が国の古代から近代までを扱った問題である。**6** の論述問題は、江戸時代の水運の発達に関連して、栃木県で河岸が発達した場所の特徴を地図から読み取らせるものであり、正答率は34.5%であった。

5 は、年表に示された近現代の主な歴史的事象について問う問題である。**3** の論述問題は、日露戦争の終結後に生じた暴動の背景について、複数の資料を結び付けて説明するもので、正答率は12.4%であった。**4** は、年代の古い順に並べ替える問題で、軍部が台頭して戦時体制へと向かう歴史の流れの理解度をみるもので、正答率は26.7%であった。歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明する学習などを一層重視して、思考力・判断力・表現力等を養い、理解の定着を図っていく必要がある。

6 は、公民的分野からの出題である。**1** は、主に経済に関する問題で、(2)は、流通の合理化についての知識をみるもので、正答率は21.4%であった。身近で具体的な事例を取り上げ、生産・消費・配分などの経済活動を学習することが今後も大切である。**2** は、主に政治に関する問題で、(5)の論述問題は、課題の解決に向けて国や地方公共団体が取り組んでいる政策について、資料から考察し表現する力をみた。正答率は29.6%で、調査や見学などを通して具体的に理解させ、地方自治の発展に寄与しようとする意識を高めることが重要である。

7 は、学習指導要領において、社会科のまとめとして位置づけられた「よりよい社会を目指して」という内容からの出題であり、地理・歴史・公民の三分野の学習成果を活用する問題である。この單元では、課題を設けて探究し、自分の考えをまとめ、よりよい社会の形成に主体的に参画する態度を養うことを目的としている。**1** は、資料を的確に読み取る基礎的な力をみる問題であり、正答率は73.0%と高く、**4** の論述問題も53.9%であり、比較的高い正答率であった。

社会学力検査結果集計表

(全日制課程全受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率		
1	1	(1)	96.0 %	3	54.3 %	6	1	(1)	53.9 % (54.5)	
		(2)	54.7 %		4			57.5 %	(2)	21.4 % (22.0)
		(3)	69.0 %		5			35.2 % (86.9)	(3)	69.2 %
		(4)	93.4 %	4	1			73.6 % (75.4)	(4)	34.0 %
	2	(1)	59.6 % (59.7)		2			11.4 %	(5)	56.9 %
		(2)	92.9 % (94.4)		3	49.6 % (66.3)	2	(1)	58.9 % (60.1)	
		(3)	57.4 % (59.1)		4	46.6 %		(2)	53.9 % (59.1)	
		(4)	29.2 % (30.6)	5	65.1 % (68.4)	(3)		63.9 % (66.0)		
6	34.5 % (82.7)	(4)	43.4 %							
2	1	36.2 %	7	40.5 % (41.5)	(5)	29.6 % (61.1)				
	2	(1)	51.8 %	5	1	69.2 % (72.2)	7	1	73.0 %	
		(2)	21.7 %		2	48.1 %		2	79.4 %	
	3	43.9 %	3		12.4 % (53.7)	3		56.0 % (61.0)		
	4	9.5 % (25.9)	4		26.7 %	4		53.9 % (88.8)		
3	1	65.4 % (65.8)	5		62.1 %					
	2	81.6 %								

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即し、数学の基礎的な概念や原理・法則の理解力、数学的な表現・処理能力及び事象を数理的に考察し表現する能力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、資料の活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題を通して、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、数学的な思考力、表現力及び処理能力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、直観的な見方、論理的に考察し表現する能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題を通して、関数的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 5 資料の活用の領域では、資料の活用の基礎的・基本的な問題を通して、確率の考え方と統計的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、資料の活用のうち、いくつかの領域からなる融合問題を通して、事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し、数学的表現や処理の仕方を活用して、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な内容の理解力、計算力及び処理能力をみる問題であり、平均正答率は78.8%であった(昨年度は79.5%)。良好な結果であり、これからも基礎・基本の定着を図ってほしい。ただし、等式の変形、平行線と線分の比、回転体の体積の3分野は70%を下回った。いずれも基本的な内容なだけに、確実に理解してもらいたい。

2 は、三つの領域(図形、資料の活用、関数)における理解力及び処理能力をみる問題であり、1は作図問題、2は標本調査、3は2乗に比例する関数についてのいずれも基本的な内容である。正答率は1が65.5%、2の(1)が87.0%、(2)が71.5%、3が48.7%であった。1と同様に、基礎的・基本的な内容について繰り返して学習す

ることが重要である。特に、作図については、基本的な作図の方法を理解するだけでなく、具体的な場面で活用できる力が大切である。

3 は、いずれも問題条件にある数量の関係を文字を用いて表現し、処理する能力を見る論述式問題である。1は、文字を用いた証明問題であり、正答率は50.0(62.4)%(()内は部分正答も含めた割合)であった。正確に式に表現するとともに、目的に応じて的確に処理する力が必要である。2は、距離や時間などについての条件をもとに立式する連立方程式の問題であり、正答率は37.7(71.8)%であった。細かな問題場面を正しく把握し、正確に連立方程式を解く力が必要である。

4 は、図形についての基本的な証明や計量問題を通して、図形の領域における論理的思考力をみる問題である。1は、二等辺三角形と円の性質を用いて二つの三角形の相似を証明する論述式問題であり、正答率は36.2(69.1)%であった。根拠を明らかにしながら論理的に考察する力や、考えを的確に表現する力の定着を心掛けてほしい。2は、(1)が正五角柱の側面に線を引いたときの最短の長さを求める問題、(2)が体積比に関する問題である。正答率は(1)が48.5%、(2)が18.3%であった。図形の面積比や体積比などの考察を通して、図形のどの要素に着目すべきかを的確に捉える力を身に付けることが求められる。

5 は、異なる条件で排水を続ける2つの水槽について、変化する水の量についての考察を通して、関数の領域における理解力及び思考力をみる問題である。1は(1)(2)が水槽の水の量に関する問題、(3)が1次関数のグラフの式を求める論述式問題であり、正答率は(1)が51.0%、(2)が39.4%、(3)が34.6%であった。いずれも基本的な内容であることから、確実な定着を望まれる。2は複雑な条件を正しく理解し、立式し処理する力を問う問題であり、正答率は11.8%であった。普段の学習から、問題場面を正しく理解し、グラフや式を用いて粘り強く考察する習慣をつけることが大切である。

6 は、立方体を積み重ねて作った直方体について考察する問題であり、「数と式」「図形」の領域の融合問題である。問題の意図する場면을的確に捉え、問題を解決する思考力や表現力、数学的な処理能力をみる問題である。正答率は、1の(1)が62.2%、(2)が46.2%、2が13.1%、3が8.3%であった。文字を用いてその場면을的確に表現し考察することや、事象の中に潜む規則性を見出したりすることを通して、普段から主体的に課題解決に取り組むことが大切である。

数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	
1	1	99.5 %	2	1	65.5 %	6	(1)	62.2 %	
	2	93.4 %		2	(1)		87.0 %	(2)	46.2 %
	3	90.2 %			(2)		71.5 %	2	13.1 % (15.4)
	4	73.0 %		3	48.7 %	3	8.3 %		
	5	65.6 %	3	1	50.0 % (62.4)				
	6	77.4 %		2	37.7 % (71.8)				
	7	77.5 %	4	1	36.2 % (69.1)				
	8	69.9 %		2	(1)	48.5 %			
	9	89.1 %			(2)	18.3 %			
	10	87.6 %	5	1	(1)	51.0 %			
	11	71.3 %			(2)	39.4 %			
	12	84.4 %			(3)	34.6 % (45.1)			
	13	73.3 %		2	11.8 %				
	14	50.4 %							

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、物理的領域、化学的領域、生物的領域、地学的領域の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活と関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての関心と理解、基礎的・基本的な知識をみるようにした。
- 3 観察・実験についての基礎的な知識・技能をみるようにした。
- 4 観察・実験を通して、自然の事物・現象を科学的に調べ、論理的に思考する力をみるようにした。
- 5 自然の事物・現象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の平均の正答率が82.0%、記述問題で73.7%であった。正答率の高かった問題は、**1**の原子を構成する粒子の90.3%、**2**の位置エネルギーの82.5%、**8**のオームの法則の80.0%であった。また、概ね正答率が75%を超え、基本的事項の定着が図られており高い正答率となった。

2 は、植物細胞の成長について、根の細胞の観察と実験を通して考察する力をみる問題である。**1**の実験操作及び**2**の根の細胞の特徴については、観察による理解の定着が図られており、正答率は70%を超えた。一方、**3**の細胞分裂前後の染色体数に変化がないことについては、正答率が42.0%とやや低かった。

3 は、鉄と硫黄の化学反応について、実験と観察を通して考察する力をみる問題である。**1**の反応の前後の物質の性質については71.6%と高い正答率であったが、**3**の鉄と反応する硫黄の質量については46.5%であった。普段の学習の中で、量的関係等について考察する時間を十分に確保することが大切である。

4 は、月や金星の運動について、観測を通して考察する力をみる問題である。**2**の月や金星の位置と満ち欠けのようすについては、模式図を活用して、金

星や月の満ち欠けを地球及び太陽に対する位置関係と関連づける必要がある。**3**の月や金星の運動と見え方については、金星と月の公転による見かけの動きの違いについて考察する必要がある。いずれの問いも正答率が40%を割り込んでおり低調であった。

5 は、音の性質について、モノコードやおんさ等の実験を通して考察する力をみる問題である。**3**の速さについては、日常生活に関連する問いであるが、正答率が58.2%であった。与えられたデータを適切に処理し、計算する学習を繰り返し行う必要がある。

6 は、気体の特性について理解し、気体の水への溶解性などの実験を通して考察する力をみる問題である。様々な実験結果をもとにした5種類の気体の推定とともに、特定した物質を化学式で表すことが求められる。代表的な物質の性質については、実験を通して体験的に理解する必要がある。また、物質を化学式で表す学習を積み重ねておくことも大切である。**2**のアンモニアの化学式は、正答率が42.9%と低調であった。

7 は、ヒトの消化について、資料の読み取りを通して考察する力をみる問題である。**1**の胃液中の酵素の名称は正答率が40.5%と低調であったが、すい液中の消化酵素のはたらきやデンプンが分解されてできる物質については、概ね良好であった。柔毛の働きについての問題などは、適切に文章にまとめる学習を日頃から行う必要がある。

8 は、気温と湿度の関係について、露点測定実験を通して考察する力をみる問題である。**4**の水蒸気量と湿度の変化では、室内の水蒸気量と湿度がどのように変化したのか記述するなど、観察・実験によって得られたデータを考察するだけでなく、中学校の理科の学習で得た複数の知識を応用して答えを導く必要があり、正答率は24.4%と低かった。

9 は、斜面の角度と物体の運動の関係性について、実験を通して考察する力をみる問題である。**2**の重力の分力の作図、**3**の表から運動のようすを考察する問いは、いずれも正答率が65%を超え、台車の運動と力の分解など学習の定着がある程度図られていた。**4**の斜面の角度と運動のようすでは、2つの実験データを分析し、台車の速度が変化するようすのちがいを見いだして、斜面の角度について考察する必要がある。正答率は47.2%であった。

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率		
1	1	90.3 %	4	1	78.3 %	8	1	81.2 % (87.0)		
	2	82.5 %		2	月の位置		39.8 %	2	①	48.2 % (53.8)
	3	78.8 %			満ち欠け		39.8 %		②	30.2 % (37.9)
	4	76.2 %	3	22.3 %	3		41.6 % (42.2)			
	5	61.4 % (63.0)	5	1	85.5 %	4	24.4 % (36.2)			
	6	77.1 % (77.7)		2	52.6 % (52.6)	9	1	50.6 % (50.6)		
	7	76.4 % (79.3)	3	58.2 % (58.2)	2		65.7 % (65.8)			
	8	80.0 % (80.0)	6	1	54.6 %		3	67.8 %		
2	1	78.1 %		2	42.9 % (43.1)		4	47.2 %		
	2	70.5 %		3	68.4 %					
	3	染色体の数	42.0 % (42.0)	4	51.6 % (70.5)					
名称		64.2 % (65.5)	7	1	40.5 % (40.5)					
3	1	71.6 %		2	54.1 %					
	2	65.8 % (68.9)		3	60.1 % (62.5)					
	3	46.5 % (46.5)	4	48.8 % (79.3)						

※ () 内は部分正答も含めた割合

英 語

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの言語活動の4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取る、基礎的な力を主にみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語で正しく伝える力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーション活動を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体平均正答率は、58.4%であった。**1**は短い対話を聞いて適切に応答する力をみる問題である。5問の平均正答率は68.9%であった。**2**は対話を聞いて、内容を理解する力をみる問題であり、小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は65.4%であり、各小問の平均正答率は(1)が61.0%、(2)が69.8%であった。**3**はまとまった長さの英文を聞いて、その要点を捉える力をみる問題であり、6問の平均正答率は44.9%であった。コミュニケーション能力を育成するためには、英語を聞いて必要とされる情報を正確に把握することのできる「聞く力」を育成することが大切である。

2 は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題で、基礎的・基本的な言語材料を活用した自己紹介文を素材にしている。6問の平均正答率は67.8%である。今年度も、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるため、語句を並びかえる問題を出題した。この出題形式の3問の平均正答率は60.8%である。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える

力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題している。今年度はメキシコの「キンセアニョス」と日本及びイギリスの成人の祝い方を話題として扱った対話文を出題した。3問の平均正答率は40.1%であった。**1**の文脈から概要を捉え解答する問題は、正答率26.8%であった。**2**の下線部の内容を表にまとめる問題は、正答率36.8%であった。**3**の文脈から概要を捉え適切な語の組み合わせを選ぶ問題は、正答率が28.9%であった。

4 は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。**1**は日本語のメモをもとに旅行の思い出を書く際に用いる英語を答える問題である。小問2問の完全正答率の平均は20.0%であり、中間点を含めると42.4%であった。**2**は絵をヒントに文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題である。小問2問の完全正答率の平均は45.1%であり、中間点を含めると54.5%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を活用して書くことが求められる。**3**は、英語で表現する力をみる問題である。今年度は、「ペットを飼うことは私たちにとってよい」というテーマについて自分の立場を決めてその理由を明確にして英語で表現する出題とした。完全正答率は2.3%であったが、中間点を含めると89.1%であった。英語を書いて自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図ることと、英文の構成力・表現力の育成を目指して、日頃から英語で表現しようとする取組を積み重ねることが重要である。

5 は、物語文を素材として用いる読解問題で、文脈に沿って内容を適切に理解する力、概要や要点を捉える力をみるものである。今年度は、主人公と祖父の交流を描いた物語文を題材にした。4問の平均正答率は55.2%であった。**2**は、本文について、前後の文脈を理解した上で、空所に入る適切な英語を選択する問題を出題した。

6 は、説明文を素材として用いる読解問題で、今年度は手紙に関する説明文を出題した。4問の平均正答率は44.7%で、中間点を含めると46.3%であった。

英文の内容を説明したり、その要点を捉え概要をまとめる力を身に付けたりするためには、日常的にまとまりのある英文の読解に取り組むことも大切である。

(全日制課程全受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	95.0 %	2	1	(1)	74.1 %	4	1	(1)	27.5 % (55.0)
		(2)	83.5 %			(2)	64.7 %			(2)	12.5 % (29.8)
		(3)	62.4 %			(3)	74.8 %		2	(1)	44.8 % (52.0)
		(4)	56.9 %			(4)	53.3 %	(2)		45.3 % (57.0)	
		(5)	46.9 %			(5)	71.0 %	3		2.3 % (89.1)	
	2	(1)	①			52.9 %	(6)	69.1 %	5	1	73.7 %
			②	69.0 %	(1)	64.1 %	2	63.4 %			
		(2)	①	68.2 %	2	(2)	81.4 %	3		13.5 % (32.2)	
			②	71.3 %		(3)	37.0 %	4		62.6 %	
	3	(1)	30.1 % (59.4)	3	1	26.8 % (27.8)	6	1	32.8 % (33.6)		
		(2)	16.8 % (19.2)		2	36.8 % (88.2)		2	58.9 %		
		(3)	97.8 % (98.0)		3	28.9 %		3	46.9 % (52.5)		
		(4)	75.1 % (86.3)			4		40.1 %			
		(5)	22.8 % (22.8)								
		(6)	26.7 % (32.4)								

※ () 内は部分正答も含めた割合